

## 地域包括ケアネットワーク No.35

## 玉島地区における地域包括ケアへの取り組み

玉島医師会 地域福祉担当理事 進藤 真

私は勤務医で、これまで医師会の諸活動には疎く、6月から理事に就任したばかりです。自院は強化型在宅支援病院で、今期より玉島地区の地域ケア会議の委員長となり、2月にあった県医師会地域包括ケア部会や倉敷市在宅療養推進事業研修会に参加させていただき、医師会と地域包括ケアへの関わりを深め始めたところです。

玉島医師会の関わる地域は、倉敷市の旧玉島市と旧船穂町を含めた地域になります。新倉敷駅周辺は、大学の立地や住宅地、マンションの造成など若年層が多いのに対して、旧玉島市街地から南西の海岸地域では、高齢化率が30～40%を超える地区もあります。平成16年の台風高潮被害では、沿岸地域から旧市街地にかけて広い範囲に浸水し、高齢者の方が亡くなりました。市のハザードマップでも高潮、津波による被災の危険区域が多くあり、高齢化に加えて災害対応も大きな課題となっています。

当地区のいくつかの特徴、取り組みについて述べます。

## 1. 在宅医療の取り組み

平成10年ヤスハラ医院、守屋おさむクリニック、井上クリニック3院所でスタートした玉島在宅グループは現在、いなだ医院を加えた4院所で在宅支援連携体制をとっており、在宅医療、看取りのグループ診療と月1回の玉島医師会館での「玉島医師会在宅グループ診療症例検討会」を開催。毎回6～10名の医師が参加し、症例検討や意見交換を行っています。私自身も病院から症例を持って参加させていただくこともあります。

## 2. 訪問看護との連携

昭和63年倉敷市からの委託により厚労省および倉敷市のモデル事業として連合医師会の協力のもと、訪問看護など在宅ケア総合推進モデル事業を実施、平成9年には児島・玉島訪問看護サービスセンターを設置しました。医師会の事業活動としては、訪問看護事業運営委員会への参加や理事会、医師会報での訪問看護事業の報告を継続しています。平成26年1月から倉敷市からの委託を受けて、タブレット端末を利用して在宅の医療と訪問看護の連携を一層推進する「倉敷在宅療養連携推進事業」を3カ年実施。現在も主治医との連絡など継続使用しています。また、地域の各訪問看護ステーションとの連携、利用促進を図るため、平成23年から「玉島地区訪問看護の集い」を毎年開催しています。平成28年1月には7つのステーションと高齢者支援センター、医師会員が参加、訪問歯科診療についての講演と各ステーションの紹介などを行いました。

## 3. 病院間の連携

地域内には大きな基幹病院はありませんが、外科、消化器、整形外科、脳外科、内科、

療養等それぞれ特色を持つ病院があります。老健施設や特別養護老人ホーム、グループホーム、高齢者住宅を併設あるいは連携を持っている院所もあり、それぞれの院所が医療・介護機能を分担しており、年2回「玉島地区病院連携の会」を開いて、医師、事務長、看護部長など顔の見える連携を目指しています。

#### 4. 地域ケア会議の取り組み

倉敷市地域ケア会議は、倉敷、水島、児島、玉島地区で運営しており、玉島地域は玉島、船穂、真備からなり、これまで見守りシステム図の作成や小地域ケア会議の相互交流及び情報交換等を図るための小地域ケア会議交流会を開催してきました。今年度も交流会を開催し、知恵を出し合い、ケア会議の目的と意義を確認すること、社会資源、防災や様々なつながりについて地域のマップ作りに取り組むことを決定しています。医師会と行政区域の不一致は多少ありますが、医療・介護、行政と地域住民の力でまちづくりが進んでいくように頑張りたいと思います。



御津医師会：山中慶人